

平成30年3月期 第2四半期決算補足説明資料

福山通運株式会社

平成29年11月8日

(単位：百万円/%)

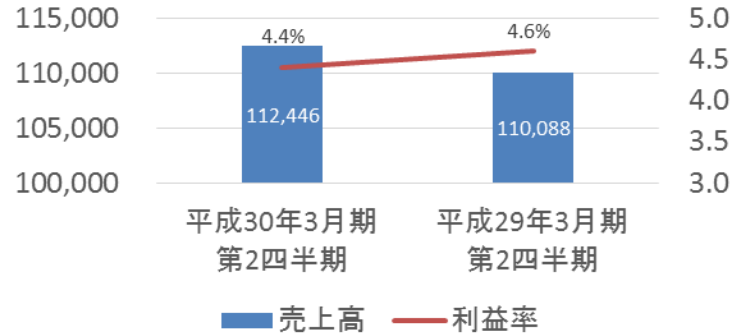
項目	平成30年3月期 第2四半期	平成29年3月期 第2四半期	前期比
売上高	128,847	125,477	102.7%
営業費用	123,624	120,258	102.8%
営業利益 (営業利益率)	5,222 (4.1)	5,218 (4.2)	100.1%
経常利益	5,934	5,946	99.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,857	4,673	82.5%

売上高は、輸送量の伸びや単価改善が寄与し、前期比+2.7%となる
 営業費用は、人手不足から外注人件費や備車費が増加し、前期比+2.8%となる
 営業利益は、売上高の増加も営業費用の増加で相殺され、前期並となる

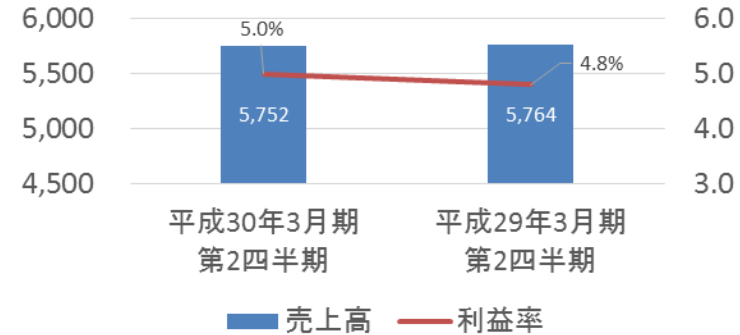
事業別売上高

(単位:百万円/%)

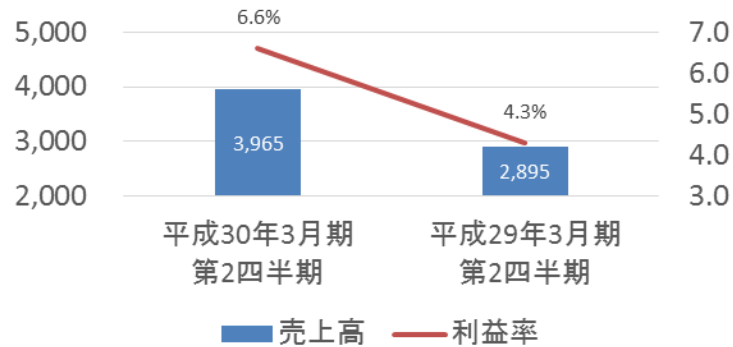
運送事業(ネットワーク事業・チャーター事業・引越など 福山通運グループの中核事業)



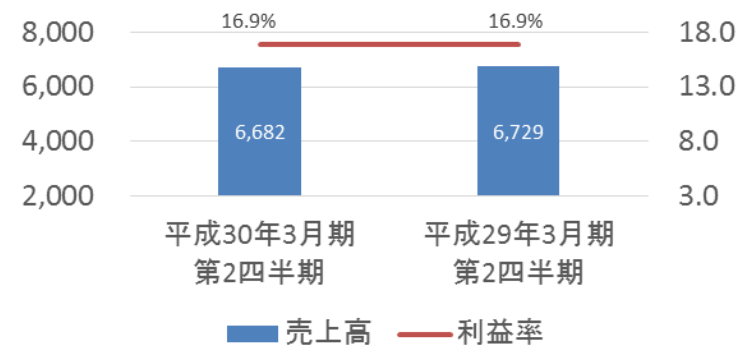
流通加工事業(貨物保管業・物流加工業・倉庫業など)



国際事業(国際利用運送業(フォワーディング)・通関業など 海外輸送に関する事業)

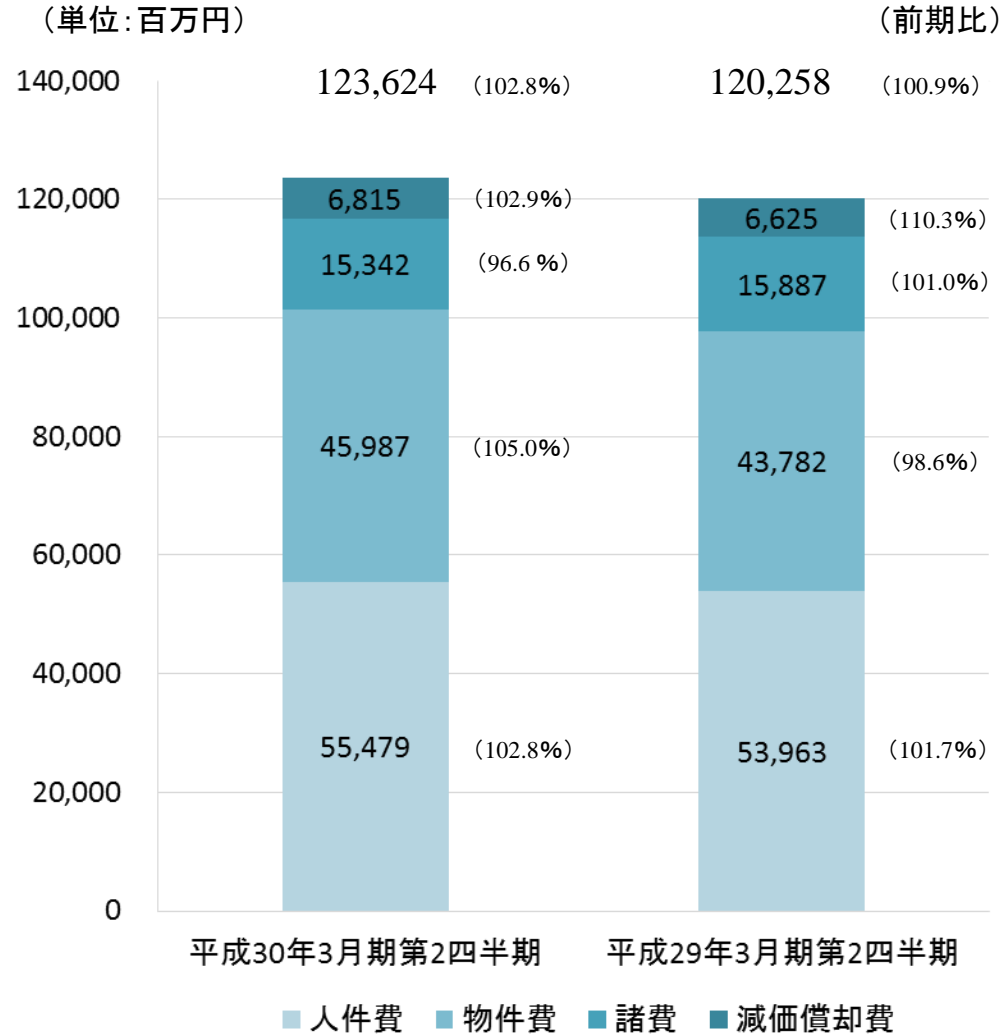


その他事業(不動産賃貸・商品販売・コンビニ・ポウリングなど)



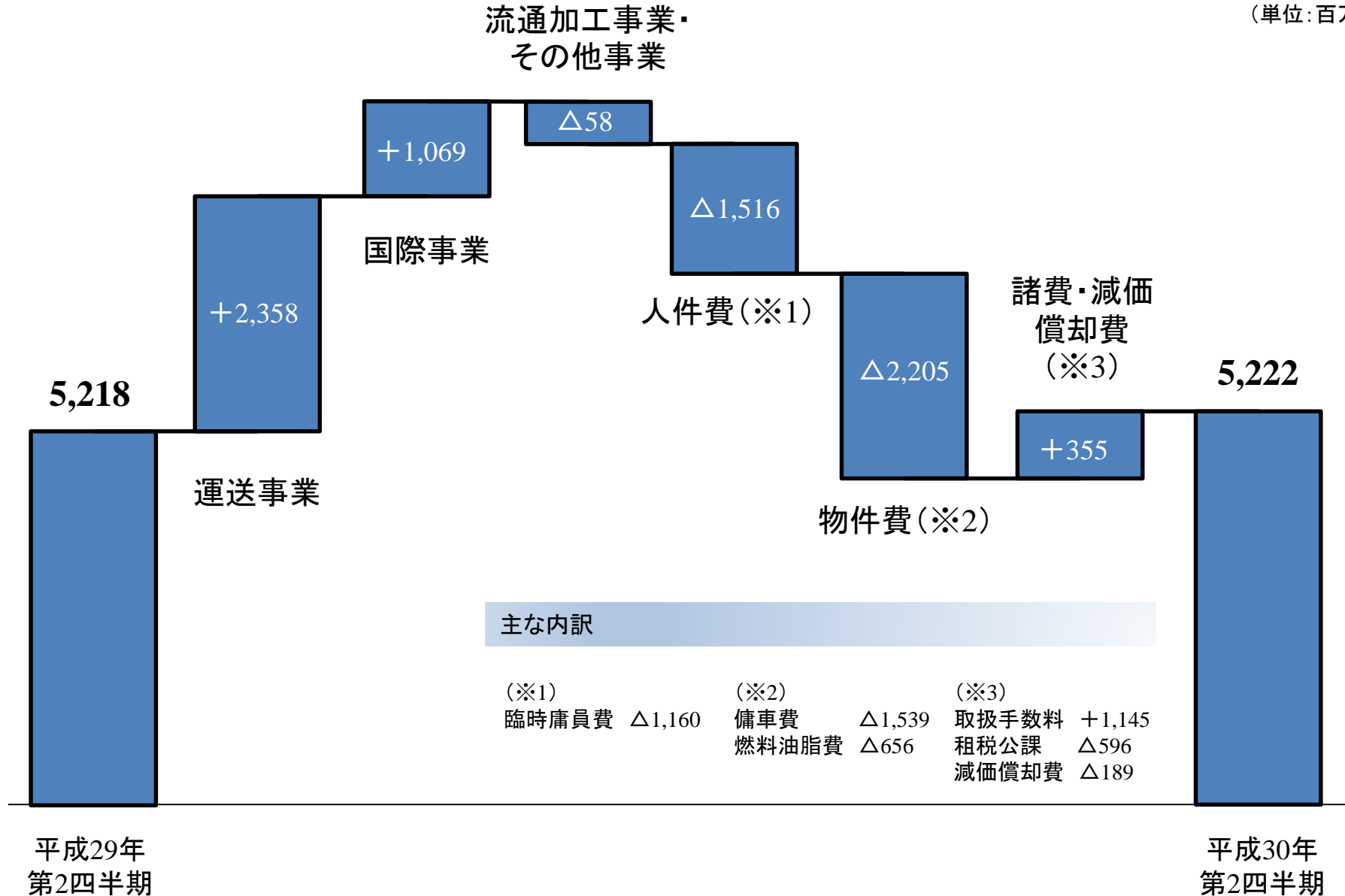
連結営業費用の増減要因

- 人件費:輸送量の増加による外注人件費が大幅増加(+1,160百万円)
- 物件費:ドライバー不足から備車費が大幅増加(+1,539百万円)。燃料油脂費は、価格の上昇により増加(+656百万円)
- 諸費:取扱手数料が大幅に減少(△1,145百万円)するものの、租税公課(+596百万円)及び国際関係費(+304百万円)が増加
- 減価償却費:ターミナルの新設、省力化に対応した機械設備の導入により増加(+189百万円)



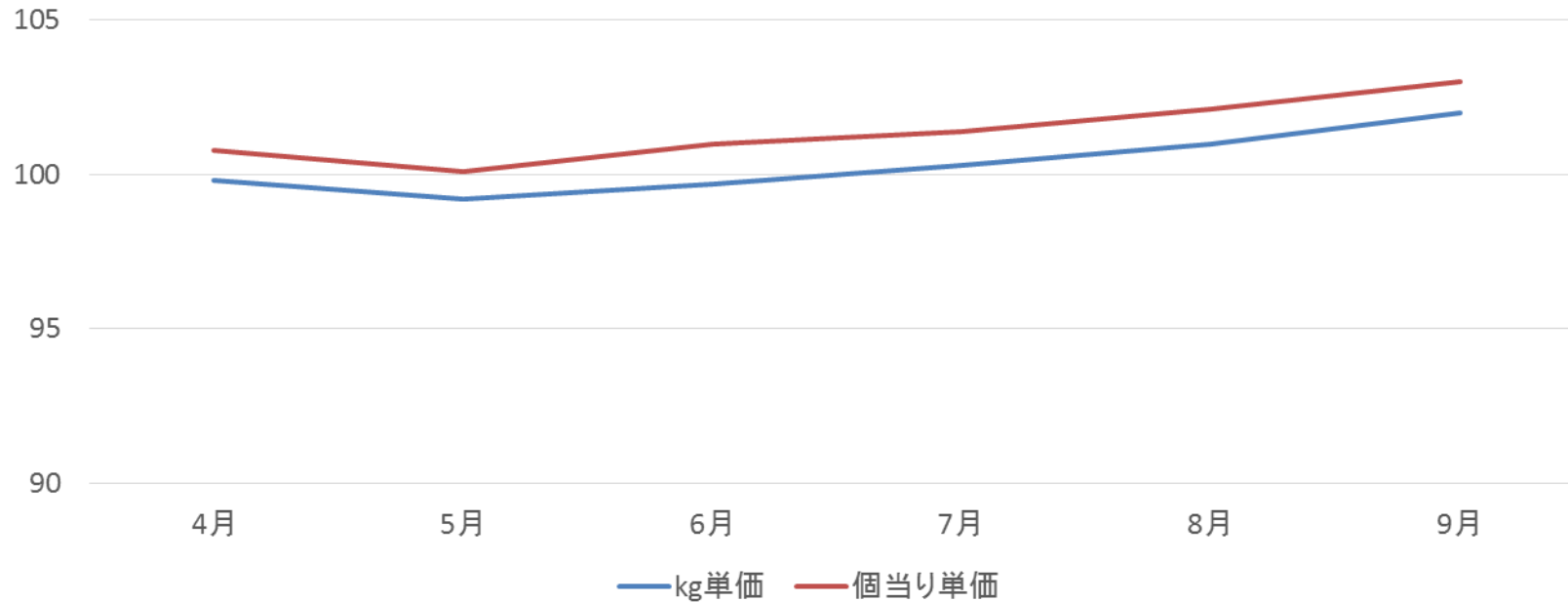
連結営業利益の増減要因

(単位:百万円)



運賃是正

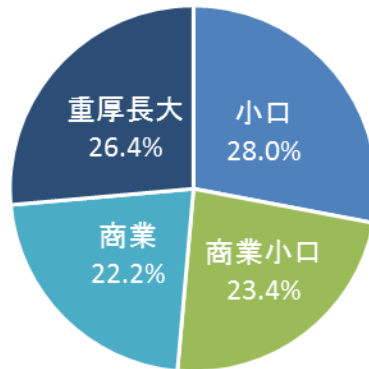
(前期比/単位: %)



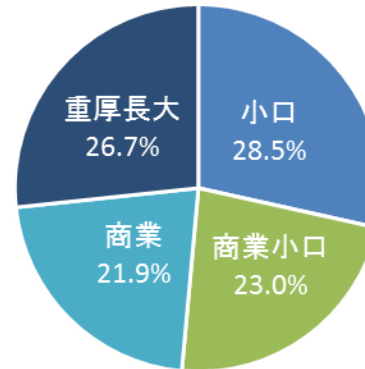
「B to B」事業への特化により、Kg単価は4~6月にかけて一時的に前期比で微減となる。しかしながら、運賃の値上げや「B to B」事業における業務効率の進展により、7月以降はKg単価、個当り単価とも改善されてきている。

■ 運賃占有率推移

平成30年3月期第2四半期



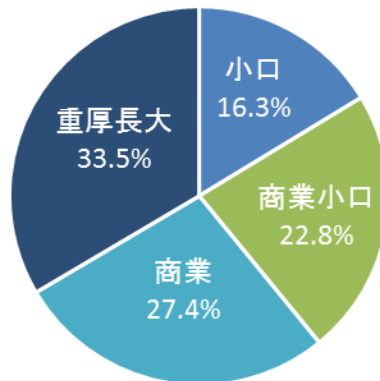
平成29年3月期第2四半期



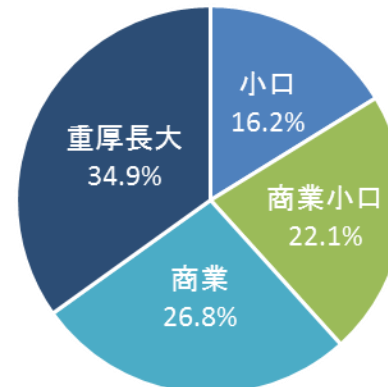
上半期では、B to C事業の縮小や輸送量の増大により目標としている構成比(商業小口荷物の拡大/重厚長大荷物の縮小)に達していないものの、上半期後半から徐々に成果が表れてきている。

■ 重量占有率推移

平成30年3月期第2四半期



平成29年3月期第2四半期

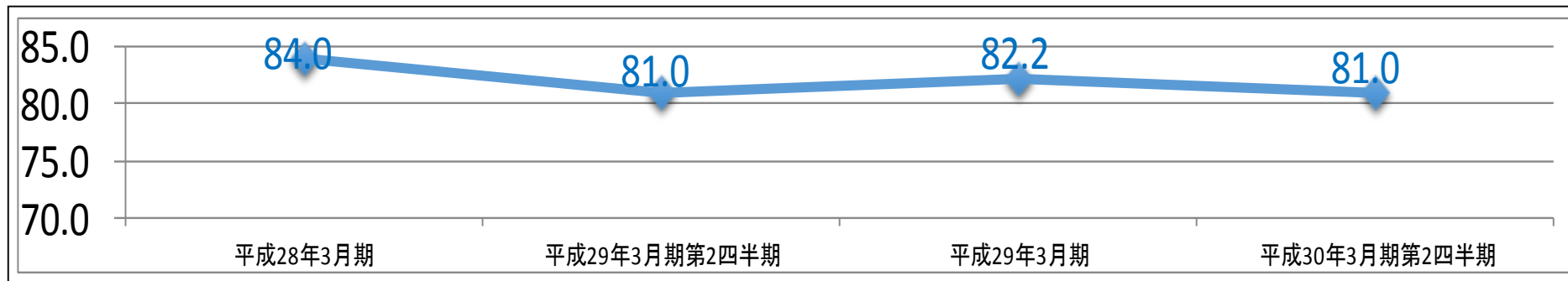


* 当社の荷物分類定義
 小口 : 1件1個30kg以下
 商業小口 : 1件5個120kg以下
 商業 : 1件6個121kg以上
 重厚長大 : 1個100kg以上または1件500kg以上

● 運行便積載率と自社化率の推移

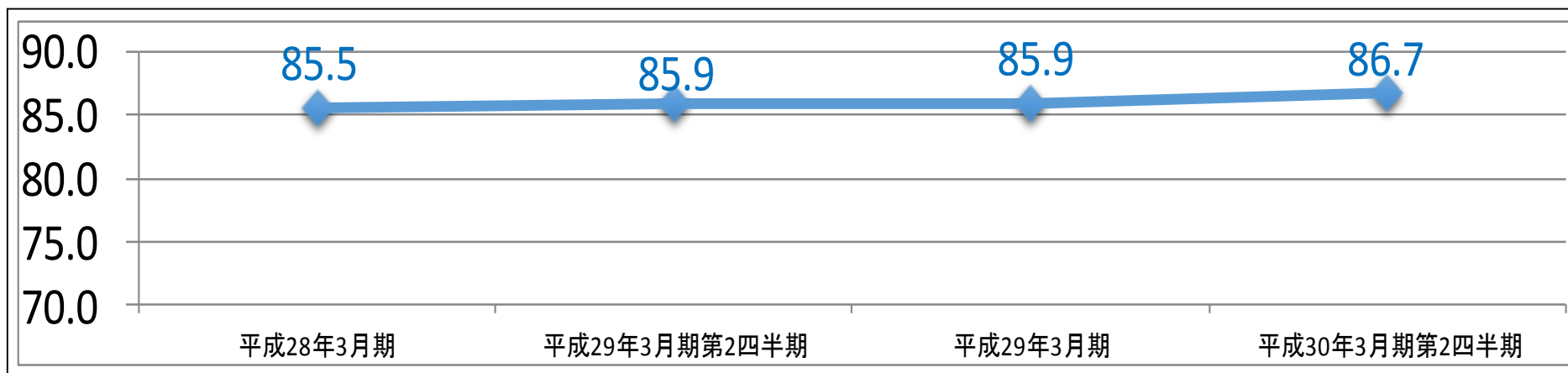
✓ 運行便積載率

(%)



✓ 運行便自社化率

(%)



平成30年3月期 連結業績予想

(単位:百万円)

	平成30年 3月期予想	平成29年 3月期実績	増減	コメント
売上高	261,600	255,677	5,923	運賃改定の効果や国際事業の拡大
営業利益	11,200	11,044	156	燃料価格の上昇やドライバー不足への対応などによりコストが増加し微増
経常利益	12,400	12,967	▲567	助成金収入の減少により減益
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,800	9,448	▲1,648	